

「怖さの理由」

小田原市立城南中学校

三年 鈴木 那采

最近、「日本に働きに来ている外国人が犯罪を犯した」といったニュースを目にするところがある。その内容は大抵過激なものであるから、「外国人労働者を減らすべき」という意見も世間にはある。しかし私は「減らすべき」だとは思えない。私の近所のコンビニやスーパー、飲食店でも外国人の店員さんを見かけるが、接客がにこやかであるし、手際も良いように見えるので、恐怖を感じたことは一度もない。むしろ、恐怖どころか、日本語の上手さから日本に溶け込もうという努力や真面目さも感じとれる。今、日本は人手不足だというし、外国人労働者は増やした方がいいのではないだろうか。

しかしそう思う反面、こんな事もあった。

私の親戚はアパートを経営しているのだが、そのアパートに外国人労働者の若者たちが引っ越してきたのだ。その若者たちは日本で働きたいという希望を持ち、日本の会社の経営者が直接外国に行き、一人ずつ面接をして採用されたので、悪い人たちではない。なので安心して受け入れた。だがある日、一本の電話がかかってきた。電話の主は若者たちの下の階に住む方で、騒音に困り果てていた。そして、「上の外国人が怖い」のだという。泣いていた。

もう一つ。ある日、またいつものようにカラスに荒らされたゴミ置き場を片付けていると、「ゴミ出しのルールを守れない人がいるからゴミがカラスに荒らされている。あの子たちが来るまでこんな事はなかったのに。」と近所のおじいさんが話していた。しかし、若者たちは会社に従い、出たゴミはすべて会社へ持ってゆき捨てている。つまり彼らはゴミ出しに関わっていないのである。

なぜこれらの課題が生まれてしまうのだろうか。やはり、外国人労働者に関連するニュースからの恐怖と嫌悪感だろうか。彼ら若者が悪い人ではないと知ってもらうことができれば、先入観はなくなるだろうか。明るい社会になるのだろうか。

知らないから怖いのであれば、相手を少し知るための良い方法がある。それは挨拶である。「おはようございます。」「こんにちは」「おかえりなさい」という言葉があるだけで、自分の意思表示になり、「コミュニケーションへとつなげることができ。挨拶をすれば、優しい知り合いの仲間が増えてゆく。挨拶をすれば、犯罪の起きない明るい地域を作ることができる。」

また、学校の授業で、「家族は最も基礎的な社会集団だ」と、習った。だから、社会をより明るくするためにはまず家族を明るくすることが大切だと思う。家族同士の「コミュニケーション」を大事にして、家庭を明るくする。

「おはよう」「ありがとう」。家庭を明るくすることなら誰でも始めやすいと思う。みんなの力で、家庭から学校を、学校から地域を、地域から国を、世界を、変えてゆこう。